

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立栗原中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド訓	救臨災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
68,328	22,277	非該当	7：1	

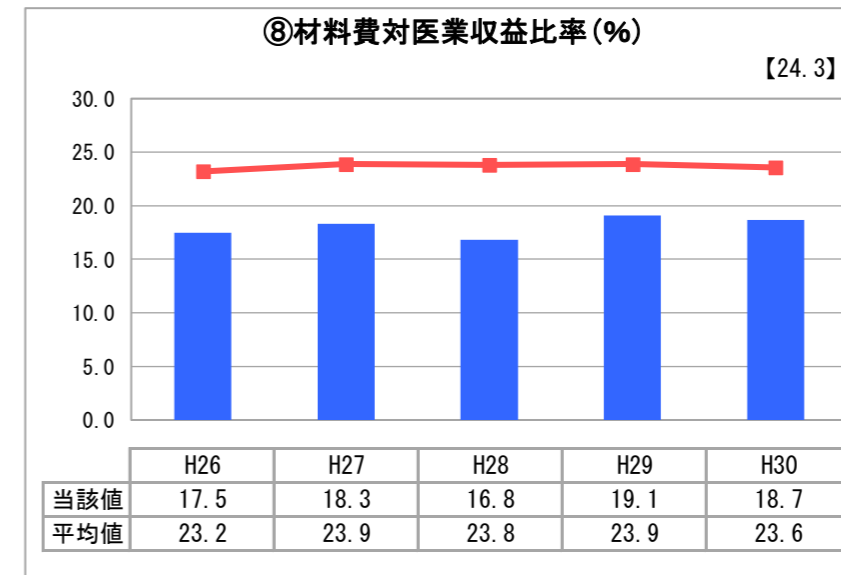
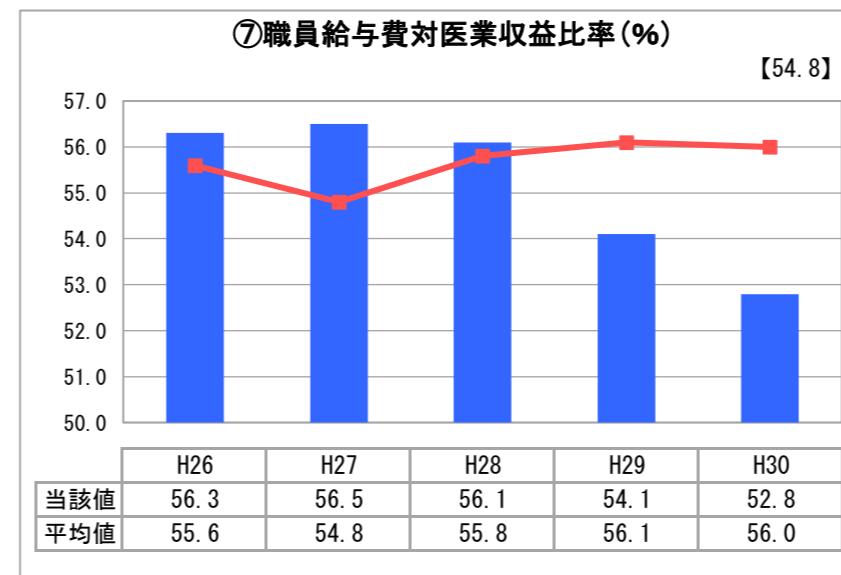
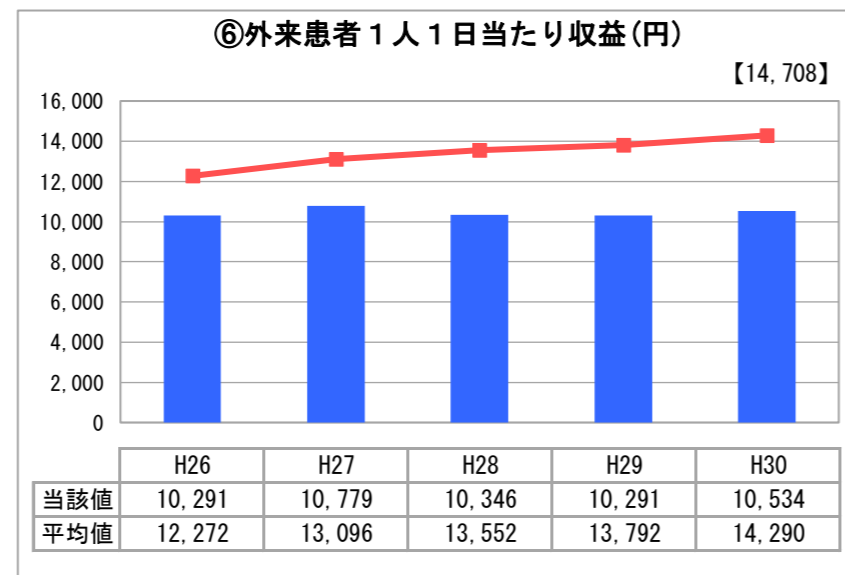
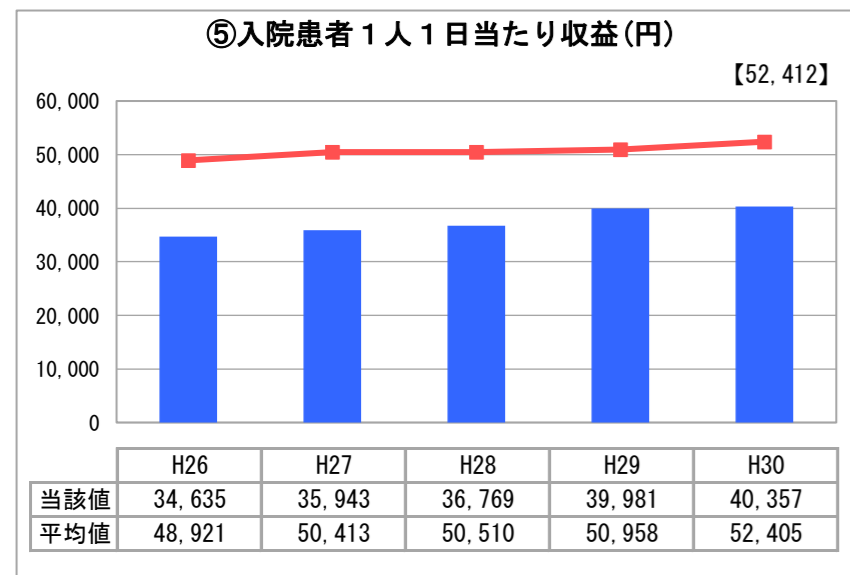
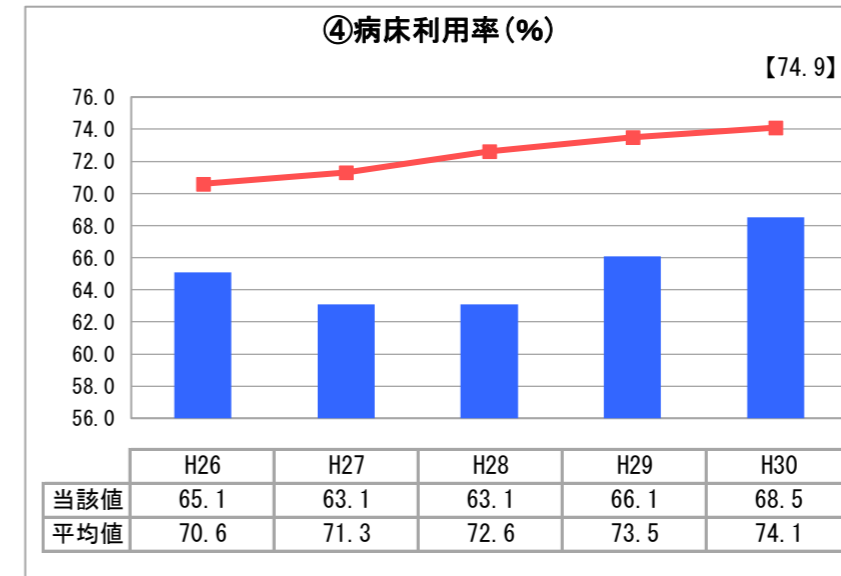
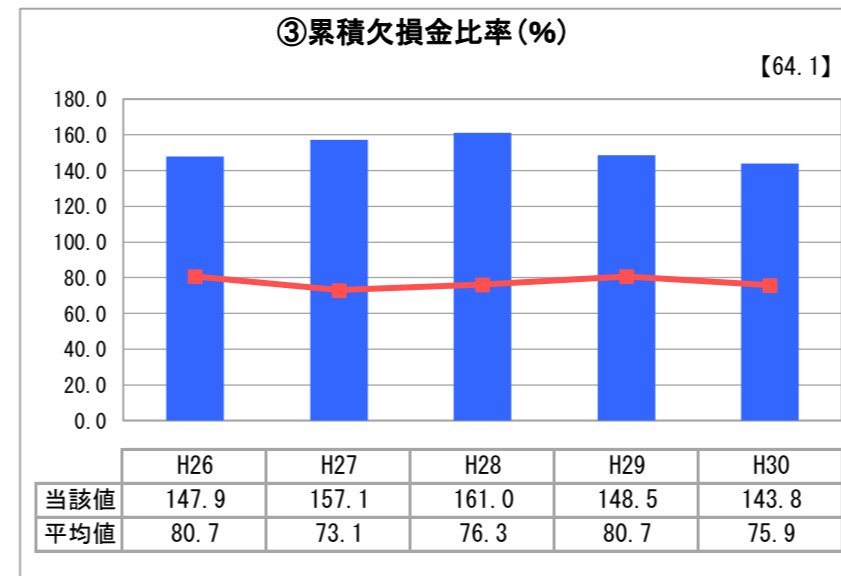
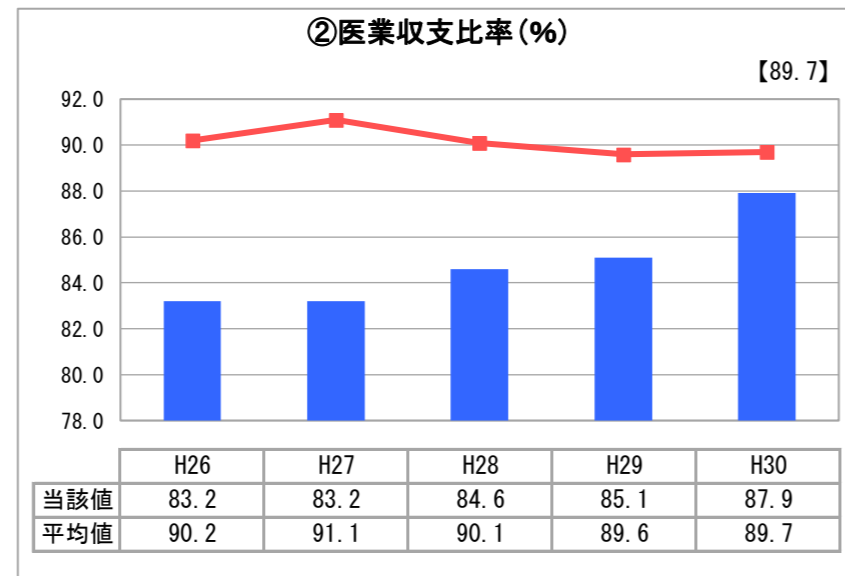
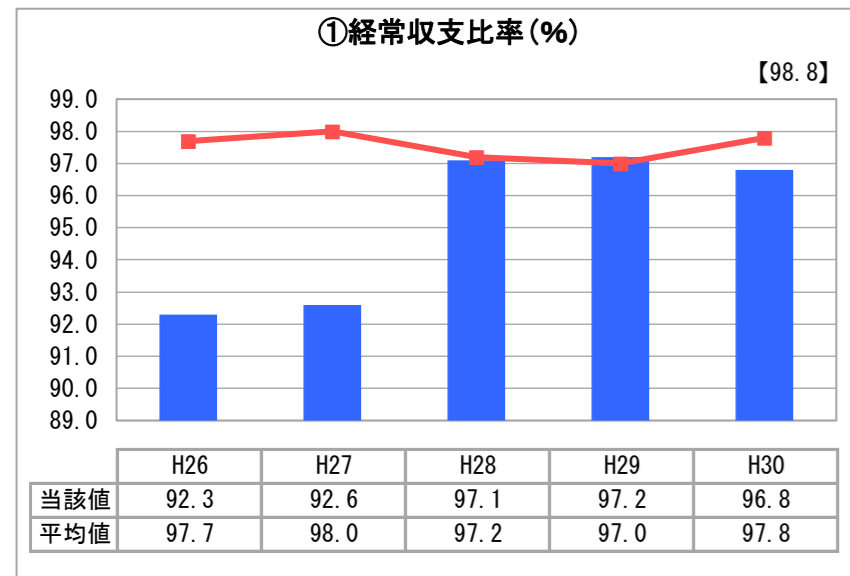
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

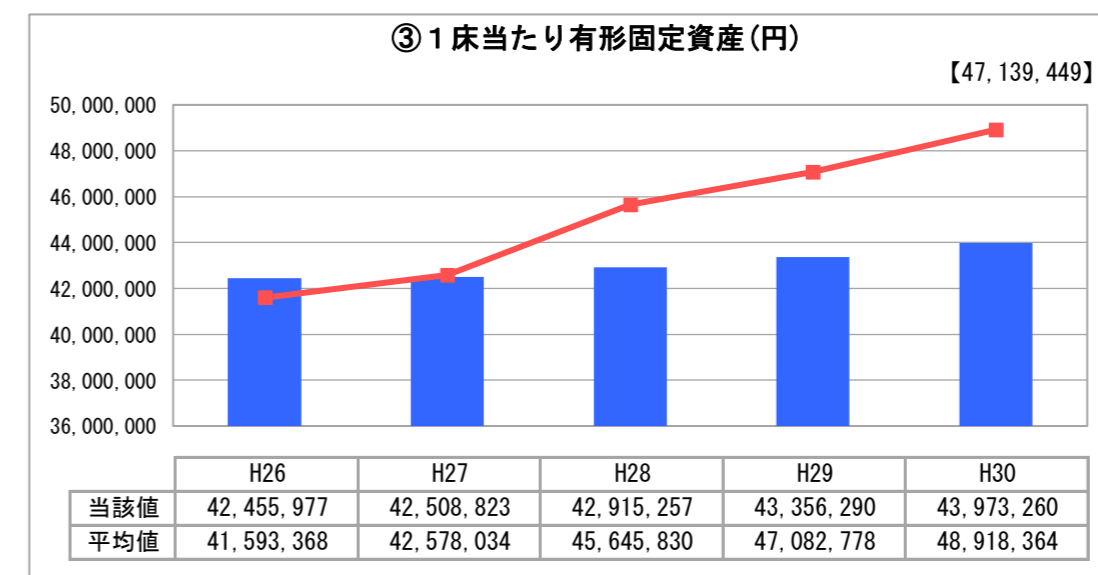
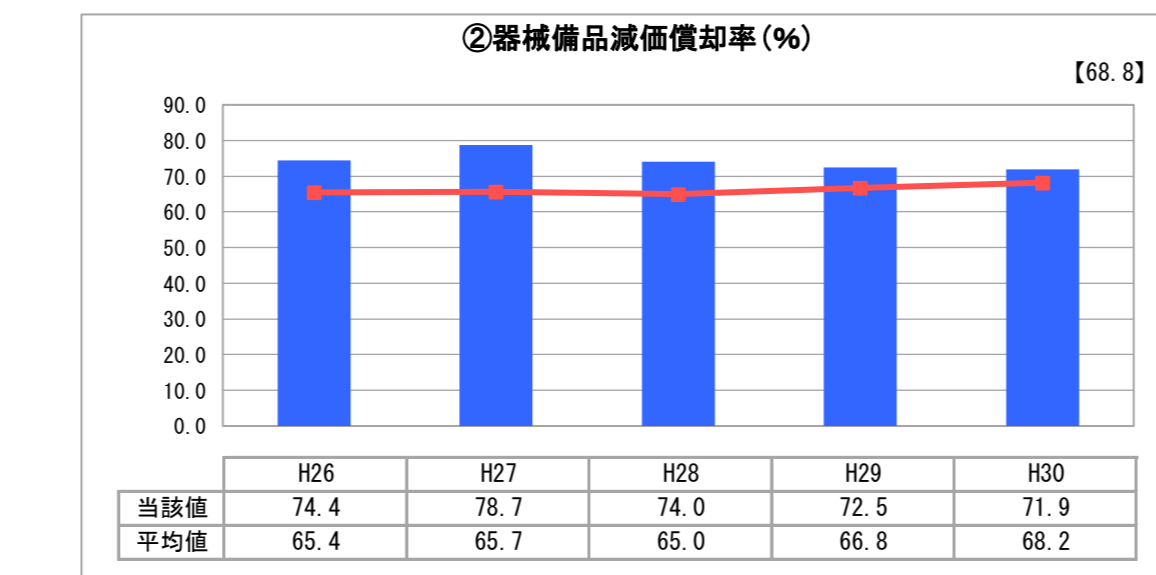
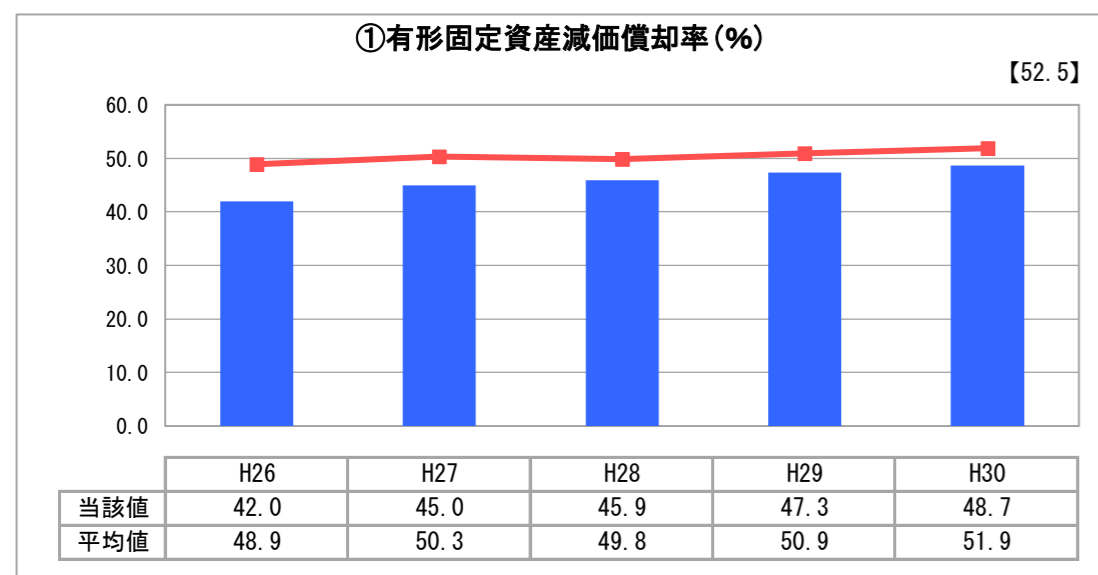
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
250	50	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	300
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
227	41	268

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

- ・ 地域の中核病院として高度医療及び二次救急医療
- ・ 急性期医療を中心に、小児から成人・高齢者に至るまで、幅広い年代層への医療
- ・ 災害拠点病院
- ・ 基幹型臨床研修指定病院

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は96.8%となり、前年度より若干悪化した。病院本体の経営指標である医業収支率は若干改善し、87.9%となり、前年度より2.8%向上した。病床利用率は70%未満で推移しているが、H29の循環器内科の開設等により上昇傾向にあり、前年度より2.4%向上し68.5%となった。病床利用率が低い要因としては、(1)常勤医師不足（泌尿器科等の常勤医師が不在となっている診療科で入院患者が確保できない）、(2)施設基準の改定に伴う平均在院日数等の短縮等が影響している。（新規入院患者数は増加しているが、平均在院日数が短縮しているために延患者数が減少している。）職員給与比率、材料費比率は平均値を下回っているが、材料費については経常収支改善のために今後も引き続き抑制を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

開院より16年経過し、医療機械や給水・給湯設備や冷暖房設備等の老朽化が目立ってきている。個別の故障については、その都度修繕により対応しているが、計画的な医療機器や設備の更新が必要であると思われる。

全体総括

常勤医師招へい等により病床利用率を高め、収入増を図ると共に、医薬品や診療材料購入費・委託費等の適正化により経費削減を図り、一層の経営改善を行う必要がある。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。